

令和 8 年度 大阪府 英語教育改善プラン

目標

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力（聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く）を総合的に向上させる

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DOリストの作成・公表・達成状況の把握（R5）
作成：100%
公表：100%
把握：98.8%

②授業づくりにおける、言語活動を行う際の、目的や場面、状況の適切な設定

未だ改善が必要な点

①児童が主体的に英語でコミュニケーションを図り、自信を持って英語を話そうとする意欲の向上

②児童の資質・能力の育成に向けた、英語教育におけるICT機器の効果的な活用方法や活用場面を明確にした単元計画の設定

2. 要因分析

①「大阪版CAN-DOリスト」を活用した取組み等により、英語力を見とる基準を共有することで、「CAN-DOリスト」の作成及び活用の取組みが府内において定着したと考えられる。

②小学校英語専科指導教員研修等を通して、言語活動について協議した内容を、各市町村に広めることで、言語活動の充実を図ることができたと考えられる。

①英語でコミュニケーションを図る必然性のある指導内容の設計や、相手意識を持てるコミュニケーション場面の機会創出、児童が主体的に学習に取り組めるような指導の工夫が必要。

②英語教育における1人1台端末等のICT機器の活用は着実に進んでいるが、ICT機器の活用自体の目的化や、学習内容とつなげた指導と評価への活かし方の検討が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①大阪版CAN-DOリスト活用促進

既に作成されたCAN-DOリストについて、「大阪版CAN-DOリスト」を参考に、各校で校種間の接続を意識した目標設定や学習評価ができるよう働きかける。

②リーダー教員を活用した授業の質的向上

研修会において府の取組みについての普及・発信を行い、学識経験者からの指導助言も得ながら、英語教育推進に係る取組みの充実や、府域小学校における、言語活動の充実に向けた授業改善を図る。

①英語活用に対する子どもたちのモチベーションを高める取組み

大阪のお笑い文化である漫才を英語で行う「EMO-1グランプリ事業」を通じて、英語を活用する機会を創出し、主体的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育む。

②ICT機器を効果的に活用した言語活動の充実に向けた取組みの推進

府独自のデジタル学習ツール「BASE in OSAKA」等を活用し、授業や家庭学習、パフォーマンステストにおける効果的な実践事例を収集し、ICT機器の効果的な活用について普及する。

英語教育フォーラムでの普及・発信

○小学校英語専科指導教員による言語活動に係る実践報告や、英語指導の在り方等に関する学識経験者からの指導助言を通じ、コミュニケーション意欲向上を含む指導方法の改善や、教員の指導力向上に資する取組みの強化を行う。
○BASE in OSAKAを授業や家庭学習、パフォーマンステスト等で効果的に活用した実践報告を行う。

＜一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組み＞

小学校を対象とした英語加点制度を導入（平成28年度実施試験より順次、加点対象となる試験を拡大。英検、TOEFL iBT、IELTS、GTEC等）CEFR C1レベル程度で40点、B2レベル程度で20点、B1レベル程度で10点加点

【参考】大阪府教育庁 英語教育推進事業

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/r04english/index.html>

令和 8 年度 大阪府 英語教育改善プラン

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力 (聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く) を総合的に向上させる

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 54.5% ⇒ R8 : 58%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

①生徒の英語力 (CEFR A1相当の割合)

	R6	R7
CEFR A1 取得 + 相当	54.1%	54.5%

・「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」の割合が増加した。

②教員の英語力 (CEFR B2相当の割合)

	R6	R7
CEFR B2 以上取得	39.6%	49.6%

・「CEFR B2レベル相当以上取得」の教員の割合が増加した。

- ①生徒の資質・能力の育成に向けた、英語教育におけるICT機器の効果的な活用方法や活用場面を明確にした単元計画や言語活動の設定
②生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図る意欲の向上

2. 要因分析

①「大阪版CAN-DOリスト」を活用した取組み等により、英語力を見とる基準の一つとして共有できた結果、生徒の英語力を適正に評価し、生徒の課題に対応した個に応じた支援ができたことが生徒の英語力の向上につながったと考えられる。

②外国語教育担当指導主事連絡会や中学校英語コーディネーター連絡会を通して、教員の英語力・指導力の向上について協議した内容を、各市町村に広めることで、教員の英語力・指導力向上につながったと考えられる。

- ①英語教育における1人1台端末等の活用は着実に進んでいるが、ICT機器の活用自体の目的化や、学習内容とつなげた指導と評価への活かし方のさらなる検討が必要。
②英語を用いた必然性のあるコミュニケーション場面の機会創出や、生徒自身が学んだことを生かすことができたと感じられる成功体験の積み重ね等が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①大阪版CAN-DOリスト活用促進

既に作成されたCAN-DOリストについて、「大阪版CAN-DOリスト」を参考に、各校で校種間の接続を意識した目標設定や学習評価ができるよう働きかける。

②リーダー教員を活用した授業の質的向上

府域中学校における、教員の英語力・指導力の質の向上、英語教育推進に係る取組みの充実に向けて、連絡会等において府の取組みについての普及・発信や、各市町村及び各校の取組みに係る情報交換や協議を実施する。

①ICT機器を効果的に活用した、言語活動の充実に向けた取組みの推進

府独自のデジタル学習ツール「BASE in OSAKA」等を活用し、授業や家庭学習、パフォーマンステストにおける効果的な実践事例を収集し、ICT機器の効果的な活用について普及する。

②英語活用に対する子どもたちのモチベーションを高める取組み

大阪のお笑い文化である漫才を英語で行う「EMO-1グランプリ事業」を通じて英語を活用する機会を創出し、言語や文化に対する理解を深め、主体的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育む。

英語教育フォーラムでの普及・発信

○中学校英語コーディネーターによる域内での実践報告や、英語指導の在り方等に関する学識経験者からの指導助言を通し、コミュニケーション意欲向上を含む指導方法の改善や、教員の指導力向上に資する取組みの強化を行う。
○BASE in OSAKAを授業や家庭学習、パフォーマンステスト等で効果的に活用した実践報告を行う。

＜一定の英語力を有する中学校教師の新規採用に係る取組み＞

中学校を対象とした英語加点制度を導入（平成28年度実施試験より順次、加点対象となる試験を拡大。英検、TOEFL iBT、IELTS、GTEC等）CEFR C1レベル程度で40点、B2レベル程度で10点

【参考】大阪府教育庁 英語教育推進事業

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/r04english/index.html>

令和 8 年度 大阪府 英語教育改善プラン

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力
（聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く）を総合的に向上させる

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：58.5% ⇒ R8：60%）
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：24.6% ⇒ R8：28%）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R6	R7
57.8%	58.5%

② CEFRB1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R6	R7
23.9%	24.6%

① CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合

R6	R7
78.0%	77.2%

② CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が24.6%と向上しているものの、改善の余地がある

2. 要因分析

①②について

- ・全日制の高校に週 5 日、定時制の高校に週 1 日ネイティブ講師を配置し、生徒が英語でコミュニケーションをとったり、授業で学んだ英語を活用したりする機会を提供したことで、生徒の英語力向上につながった。
- ・令和 7 年度から開始した姉妹校交流支援事業により、各校における海外の姉妹校との交流が活性化するとともに、デジタル学習ツールを活用することで、生徒が英語を使う場面が増加している。

①について

- ・英語力及び指導力の向上に向けて教員研修は継続的に実施しているものの、教員の英語力向上に向けた取組みが不十分である。
- ・多忙のため、個人の専門性の向上のために研修に参加したいと思っても、時間を費やすことができない教員も多い。

②について

- ・将来グローバルに活躍することが期待される生徒層を対象とした取組みが不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②授業内外での英語を使う機会の提供

- ・引き続き姉妹校交流支援事業を実施することにより、生徒が海外の姉妹校を訪問したり、オンラインで交流したりする等、現地の生徒と交流できる機会を提供するとともに、府独自のデジタル学習ツール「BASE in OSAKA」を全 1 年次生に導入することで生徒が授業内外でより英語を使うことができる環境を整備。
- ・ネイティブ講師の配置を継続するとともに、授業で学んだ英語を活用しながら、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションをとるイングリッシュキャンプを実施。

①教員研修の実施

- ・高度な英語運用能力（CEFR C1以上）及び指導力を備えた教員を育成するため、令和 8 年度より、新たに英語科教員を対象とした海外研修を実施し、教員が海外で英語教授法について研修を受ける機会を提供。
- ・教員経験 5 年め～ 8 年めの教員を対象に実施している悉皆研修をより充実させるため、外部講師を招いて、生徒の 4 技能を育成する授業づくりについての英語での集中講義を実施。

②生徒研修の実施

- ・グローバルに活躍することが期待される層の拡充のため、府立高校生が海外から日本に留学している大学生と対面でディスカッションを行うことができる国際会議を実施。

（参考URL：大阪府教育庁 英語教育推進事業
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/r04english/index.html>）

大阪府教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		52	56.1	57	57.8	59	58.5	60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		21	18.6	21	23.9	26	24.6	28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		71	80	80	83.3	85		85		85	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		46	38.9	46	36.3	47		48		49	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.4	100		100		100		100	
		公表(%)	100	97.7	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	97.7	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		72	73.9	74	78	78	77.2	79		80	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		67	66.3	67	68.5	68	67.8	69		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		52	51.2	54	54.1	56	54.5	58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	98.8	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50	39	50	39.6	50	49.6	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	97.1	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	98.8	100		100		100		100	